

平成30年度 第3回 小野申人といきいきトーク

と き	平成31年1月17日（木） 19時～20時30分
と ころ	府中市立府中学園
テ ー マ	子育て・教育、地域づくり、防災
出席者	学校運営協議会委員12名 小野市長、栗根総務部長、九十九健康福祉部長、 若井建設産業部長、石川教育部長、門田学校教育課長

《教育》

コミュニティ・スクールの取り組みなどについて

- ・ 当初から言えば、CSも府中学園も随分進み、地域に根ざしてきている。地域の清掃活動や灯籠まつりで地域と子どもたちが関わりを持ってやっている。
- ・ CSの1つの大きな柱が灯籠まつり。夏に子どもたちが様々なブースでいろいろな体験をする。校区には多くの企業があり、プログラミングなどを子どもたちに体験させるなど、地域の方と企業の方に学校に入ってもらい子どもたちと一緒に活動することで、この校区の特徴を活かしたコミュニティづくりができるのではないかな。
- ・ CSの学校行事として一番浸透しやすいのは、去年からされている奉仕活動。この形が一番地域・子ども・父兄の三者がその場でコミュニティができる。
- ・ PTAと町内会とのつながりが弱い。つながれば情報が入ってくるが、つなぐ組織がない。上手く子ども会とPTA、町内会とPTAをつなぎたい。
- ・ CSには各公民館の推進員や館長がいるが、教育委員会が母体になり組織を作ることを検討してもらい、コミュニティ会議のようなものをしてはどうか。
- ・ 保護者が忙しくなかなか地域のことに出不い状況がある。PTAもしっかり参加できることを見出していかなくてはならない。
- ・ 昔に比べ様々な問題が複雑化してきている。SNSを使ったいじめやタブレットを使っただけでなく、今までなかった問題を学校や保護者だけで解決することは難しいこともある。地域が入ったら解決できるというわけではないが、皆で協議をしたという昨年度の経緯がある。そういった形がコミュニティの理想なのでは。
- ・ CSについて、町内会などの役員は知っているが、他の人は全然知らない。もう少し宣伝していく必要があると思う。
- ・ 学校だけに任せるのではなく、自分は当事者なのだと思ってもらえる地域の方を増やすことや、一緒にがんばろうという保護者を増やすことを、学校運営協議会が中心になり取り組みを進めていかなくてはいけないと思う。
- ・ 後期課程（中学生）保護者の育成委員がいないため、地域が後期課程とつながる拠点が無い。大きな問題と感じる。
- ・ 働き方改革というか、学校の教育の中身を地域の人にお任せできないかと考えてやってきている。いろいろな場面で学校の教育内容で地域の方にお世話になっている。今後もアイデアを出して一緒にやっていくことが子どもにとっても大きな学びにつながると

思っている。その中心が学校運営協議会と考えている。

CS以前より見守り隊などがあり、そういったものが改めてCSという形になってくる中で、地域・学校・家庭が連携しようという取り組み。そういった意味では特別新しいことをするというわけでもない。CSについては様々なやり方がある。

市

《子育て》

- ・ 女性こども課より4月からネウボラが始まると聞いたが、どんな形で進めるのか。
- ・ 福山では待機児童があり困っているそうだが、府中の現状はどうか

ネウボラは妊娠から育児をワンストップでつなげること。母子手帳をもらった後のフォローをずっとしていく。今拠点を設けようとしている。ただ、ワンストップで始める事業は新年度夏頃から開始予定

府中市の待機児童は0。とはいえ0・1・2歳のニーズが高まっており、いっぱいの状態。また、府中市在住の方が最優先だが、市外から府中に働きに来ている方のお子さんも預かれるような施策も考えている。

市

《防災》

- ・ 行政から依頼を受け、民生委員と町内会長で災害時要支援者の調査をし、誰が誰を助けるかを確認する必要があるが、高齢化社会になり、支援をする人が少ない。
- ・ 昨年7月の豪雨で甚大な被害があった。そういった災害のときに障害者の方をどこへ避難させるか、どういった手段で支援をするか。健常者と障害者の避難場所を府中市がどの程度確立しているのか、また、弱者に対する手厚い支援を実際にこのような体制でこのようにするということが聞きたい。
- ・ 自分の町では、障害のある方の避難場所として、町内の特別養護老人ホームなどの介護施設に町内会長がお願いに行き、了承をもらっている。
- ・ 人口に対して避難所が少ない。
- ・ 地域で開設した一時避難所から市の窓口連絡すれば対応はすぐできるようになっているのか。避難物資は来るのか
- ・ 町内会の住民に避難場所を説明していたが変更されていた。変更するのであれば、事前に知らせてほしい。
- ・ 建物がすでにないところに避難場所の看板が立っているので、撤去したほうがいい。例えば出口の公民館やグラウンドの上の集会所。また、場所はどんどん変わっているが市のMAPは古い番号になっている。
- ・ ブロック塀の件があり、子供の通学路について地域や保護者の力を借りて点検してきたが、校区の中で危険箇所の情報があれば教えてほしい。

避難準備、避難勧告、避難指示情報がある。昨年7月の豪雨災害を受け、次の台風からは、早めに避難準備情報を出し、空振りでも良いので、高齢者や手助けの必要な方について避難してもらうようにしている。

避難所については市が指定しているのは10箇所。そこへ市職員が2人ずつ24時間、ほぼ40人が必要。それ以外に公民館や集会所など約80箇所近くあるが、そこは地域の方にお願ひし開設してもらっている。大切なのは市とどう連携するか。

市が設定している避難所についても浸かったところがあり、改めて検討を進めている。

地域で開設した一時避難所でも避難人数など市の窓口と町内会長と連絡を取っている。必要な避難物資がいるという要請があれば届けるようにしている。

市

《最後に》

CS本質である、地域・家庭・学校が連携をとる大切さを言っていたわけど、教育に限らず防災にしても、地域の集会所と行政のあり方にしても連携の大切さというのを感じるところ。今日に限らずこのような機会を設けていく中で意見を出していただき、市政に反映していきたい。

市